

『国立歴史民俗博物館研究報告』(第131集～第150集)総目次

(正体数字は横組, 斜体数字は縦組のページ数)

第131集 共同研究「佐倉連隊と地域民衆」 (2006年3月発行)		
共同研究の経過と概要	樋口雄彦	1-3
城下町と連隊町——佐倉町のばあい試論——	塚本 学	5-24
佐倉歩兵第二連隊の形成過程	宮地正人	25-50
佐倉連隊の日常生活——昭和九年のある上等兵日記から——	一ノ瀬俊也	51-84
[資料紹介]		
佐倉連隊関係資料	宮地正人	85-227
昭和戦前期における第五七連隊と佐倉の町並み	安田常雄	229-269
『さくら』『千葉連隊区将校団報』『五七』の総目次	樋口雄彦	271-336
第132集 共同研究「民俗学における現代文化研究」 (2006年3月発行)		
共同研究の概要	島村恭則	1-5
〈生きる方法〉の民俗学へ——民俗学のパラダイム転換へ向けての一考察——	島村恭則	7-24
戦後民俗学の認識論的変質と基層文化論——柳田葬制論の解釈を事例にして——	岩本通弥	25-98
幽霊の変容・都市の変貌——民俗学的近・現代研究に向けての試論——	高岡弘幸	99-120
フィールドにおける二つの語り	中筋由紀子	121-132
国家の装置としてのPTA	岩竹美加子	133-180
共有地利用の変遷と村の行方——石川県旧鳳至郡門前町七浦地区における植林と村の規約——	安井真奈美	181-208
〈落差〉を解く——豊前神楽をめぐる歴史人類学的一解釈——	白川琢磨	209-242
部落解放運動の現在と被差別部落の民俗——大阪府和泉市の事例を通して——	政岡伸洋	243-269
映像と音——見る「主体」の問題として——	内田順子	271-286
近代における遺影の成立と死者表象——岩手県宮守村長泉寺の絵額・遺影奉納を通して——	山田慎也	287-325
明治・大正期における軽犯罪の制度的変化と社会管理の強化	青木隆浩	327-355
[講演記録]		
〈私文化〉をめぐる諸問題——アイデンティティ論を中心に——	西川長夫	357-368
民俗学運動と学校教育——民俗の発見とその国民化——	小国喜弘	369-377
第133集 (2006年12月発行)		
古代城柵の研究(三)——城柵展開史と南北交流——	阿部義平	1-49
縄紋時代研究における炭素14年代測定	小林謙一	51-70
大阪府瓜生堂遺跡出土弥生中期木棺の年代	坂本 稔・春成秀爾・小林謙一	71-83
近江国筑摩御厨における自然環境と漁撈活動——湖岸の御厨の環境史——	佐野静代	85-108
関東地方における弥生時代農耕集落の形成過程	設楽博己	109-153
慰霊と軍神 再考	新谷尚紀	155-171
弥生時代と鉄器	春成秀爾	173-198
弥生時代中期の実年代——長崎県原の辻遺跡出土資料を中心に——	藤尾慎一郎・今村峯雄	199-229
巖島神社玉殿——内宮と外宮の玉殿——	山田岳晴	231-275
道祖神信仰の源流——古代の道の祭祀と陽物形木製品から——	平川 南	317-350
[研究ノート]		
中国遼東半島漢代墓制の内部空間利用にみる地域性——遼陽・瀋陽地区との比較を		

含めて——	石川岳彦	277-288
中国の水田漁撈——黒タイ族のウケ漁——	西谷 大・刀 潔	289-315
[資料紹介]		
「寛永十六年がれうた船渡海禁止高札」他	小島道裕	351-358
生徒のノートからみた沼津兵学校の教育	樋口雄彦	359-396
第134集 共同研究「律令国家転換期の王権と都市」(論考編) (2007年3月発行)		
共同研究の概要と経過		1-3
[第I部] 王権論		
大極殿儀式と時期区分論	吉川真司	7-26
元・斎王井上内親王廃后事件と八世紀王権の転成	榎村寛之	27-47
桓武の皇統意識と氏の再編	仁藤敦史	49-74
葉子の変とその背景	西本昌弘	75-91
[第II部] 都城論		
日本古代宮都の周辺——宮都と葬地——	山中 章	95-109
古代都城における二つの形態——都城形態からみた長岡京——	網 伸也	111-136
長岡平安遷都の史的背景——首都立地論の試み——	北村優季	137-154
桓武朝における楼閣附設建築	山田邦和	155-177
[第III部] 交通と周辺論		
都と地方間の交通路政策	高橋美久二	181-199
光仁・桓武朝の国土意識	三上喜孝	201-211
太宰府における八・九世紀の変容	山村信榮	213-228
律令国家転換期の王権と隼人政策	鈴木拓也	229-247
[第IV部] 生産論		
律令国家転換期の須恵器窯業	北野博司	251-274
光仁・桓武朝の瓦生産について——長岡宮式軒瓦を中心として——	中島信親	275-298
牛頸窯跡群と九州の須恵器生産体制——八世紀以降を中心として——	石木秀啓	299-353
[シンポジウム]		
「律令国家転換期の王権と都市」		357-414
第135集 共同研究「律令国家転換期の王権と都市」(資料編) (2007年3月発行)		
復原弘仁格史料集		3-250
単行法令史料目録		253-377
第136集 (2007年3月発行)		
『極楽寺殿御消息』再考——田中穰氏旧蔵典籍古文書所収本の紹介から・附翻刻——	内田澗子	1-38
儀礼、歴史、起源伝承——博多祇園山笠にかんする一考察——	宇野功一	39-113
文安・宝徳期の武家歌壇——能登守護畠山義忠と正徹——	酒井茂幸	115-134
『江戸名所図会』にみる隅田川名所と流域の地域特性	鈴木章生	135-158
東北地方における狼の民俗儀礼——岩手県上閉伊郡大槌町の「オキノ祭り」		
を中心に——	菱川晶子	159-185
非破壊分析による鉄炮銃身の材質と製作技法の解析	齋藤 努・高塚秀治・宇田川武久	237-265
市の誕生と都市化——生業経済の定期市から市場経済の市へ——	西谷 大	267-333
灌漑システムからみた水田稲作の多様性——雲南国境地帯のタイ、アールー、		
ヤオ族の棚田を事例として——	西谷 大	335-378
瀬戸内島嶼部の生業におけるタビの位置——愛媛県越智諸島の事例から——	松田陸彦	379-435

[資料紹介]

- 国立歴史民俗博物館所蔵唐船反物切本帳について 石田千尋 187-201
 荒川重平回想録——昭和から振り返る旧幕臣の幕末・明治—— 樋口雄彦 203-236

第137集 共同研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」(2007年3月発行)

- 共同研究の概要と経過——基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」—— 今村峯雄・小林謙一 1-6
 年輪年代法と歴史学研究 光谷拓実 7-22
 焼成考古遺物から抽出した石英粒子を用いての赤色熱ルミネッセンス(RTL)年代測定——炉跡から出土する焼石を用いた熱ルミネッセンス年代測定—— 橋本哲夫・伊庭 毅 23-35
 加速器質量分析による¹⁴C年代測定の高精度化に向けての課題と検討 中村俊夫 37-59
 日本産樹木年輪資料中の炭素14濃度を基にした較正曲線の作成 尾寄大真・今村峯雄 61-77
 [研究ノート]炭素14年代較正ソフトRHC3.2について 今村峯雄 79-88
 縄文時代前半期の実年代 小林謙一 89-133
 弥生青銅器の成立年代 春成秀爾 135-156
 土器型式を用いたウィグルマッチングの試み 藤尾慎一郎 157-185
 民家研究における放射性炭素年代測定について[その1]研究の意義と概要 中尾七重 187-209
 民家研究における放射性炭素年代測定について[その2]重文閨家住宅・重文箱木家住宅・重文吉原家住宅の事例 今村峯雄・中尾七重 211-225
 加速器質量分析法による歴史時代資料の¹⁴C年代測定——和紙資料の測定を中心に—— 小田寛貴 227-243
 炭素14測定からみた鬼城山遺構の築造年代 今村峯雄・小林謙一・新免歳靖・坂本 稔・谷山雅彦 245-254
 西日本最古のキビ——滋賀県竜ヶ崎A遺跡の土器付着炭化物—— 宮田佳樹・小島孝修・松谷暁子・遠部 慎・西本豊弘 255-265
 スス・コゲからみた炊飯用鍋とオカズ用鍋の識別——カリंगा土器の使用痕分析—— 小林正史 267-304
 安定同位体比に基づく土器付着物の分析 坂本 稔 305-315
 流山市三輪野山貝塚における¹⁴C年代測定研究 小林謙一・坂本 稔・新免歳靖・尾寄大真・村本周三・小栗信一郎・小川勝和 317-338
 炭素14年代測定に関するサンプリングの実践と課題——岡山県彦崎貝塚出土炭化材の炭素14年代測定—— 遠部 慎・宮田佳樹・小林謙一・松崎浩之・田嶋正憲 339-364
 AMS-¹⁴C年代測定を用いた遺跡形成過程推定への取り組み 村本周三・小林謙一・坂本 稔・松崎浩之 365-387
 山梨県銚子塚古墳周溝出土木柱および樹木資料等の炭素年代 今村峯雄・小林謙一・広瀬和雄・森原明廣 389-404

第138集(2007年3月発行)

- 古代城柵の研究(四)——辺要宮城を巡って—— 阿部義平 1-35
 現代のメモリアルとミュージアムの場における過去想起に伴う感情操作の特徴——ポーランド・バウジェッツ・メモリアルとベルリン・ホロコースト・メモリアルの空間構成と展示による過去表現に関する比較研究—— 寺田匡宏 37-66
 八戸藩江戸勤番武士の日常生活と行動 岩淵令治 67-124
 [資料紹介]
 伊能家資料中の楫取魚彦編著『千歌』の翻刻と紹介 片山 武 125-174
 荒川重平回想録抜粋——旧幕臣としての交友関係を中心に—— 樋口雄彦 175-208

第139集 (2008年3月発行)		
ネットワークで公開する電子展示の利用特性と評価に関する検討 安達文夫・小島道裕・高橋一樹		1-16
河内地域における弥生前期の炭素14年代測定研究 小林謙一・春成秀爾・坂本 稔・秋山浩三		17-51
土地利用と斜面畑からみた水田稲作の多様性——雲南省者米谷のタイ、ハニ、アールー、ヤオ、クーツォン族の生業戦略を事例として——	西谷 大	53-98
鎌倉期の諏訪神社関係史料にみる神道と仏道——中世御記文の時代的特質について——	井原今朝男	157-185
韓国観音画像の変化と信仰の連関性	金 秀炫	187-202
後陽成天皇の収書活動について——文学関係資料を中心に——	酒井茂幸	203-220
[資料紹介]		
国立歴史民俗博物館所蔵『顕広王記』応保三年・長寛三年・仁安二年巻	高橋昌明・樋口健太郎	221-244
阿部義平先生を送る	杉山晋作	99-101
阿部義平年譜・業績目録		102-109
今村峯雄先生を送る	坂本 稔	111-113
今村峯雄年譜・著作目録		114-123
宇田川武久先生を送る——海賊と鉄炮そしてヨーロッパ——	齋藤 努	125-127
宇田川武久年譜・著作目録		128-132
春成秀樹先生を送る	西本豊弘	133-134
春成秀樹(秀爾)年譜・春成秀爾研究業績目録		135-155
第140集 共同研究「歴史展示における「異文化」表象の基礎的研究」 (2008年3月発行)		
研究の経緯と成果・課題	久留島 浩・小島道裕	1-19
[第I部] 資料に見る「異文化」		
アイヌの御目見(ウイマム)儀礼——小玉貞良『松前屏風』を導入として——	菊池勇夫	23-41
渡辺村の構造について——絵図と被差別民——	村上紀夫	43-58
江戸勤番武士が見た「江戸」——異文化表象の視点から——	岩淵令治	59-96
異国へ贈られた漆器——天正遣欧使節の土産物——	日高 薫	97-116
近代日本人の東アジア・南洋諸島への「まなざし」——絵葉書の史的価値と「異文化」表象——	浦川和也	117-166
[第II部] 展示における表象		
博物館の利用者主体の教育論構築にむけて——異文化理解を促す学習論の紹介と提案——	並木美砂子	169-183
「異文化」とされる側の記憶と表象——在日朝鮮人と博物館運動——	君塚仁彦	185-200
歴史展示における模型の意味と活用	小島道裕	201-211
「異文化」展示すること・「自文化」を展示すること——歴博と大英博物館の「対外関係」の展示プランを比較して——	久留島 浩	213-243
第141集 共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究」 (2008年3月発行)		
共同研究の経過と概要	新谷尚紀	1-6
古代・中世前期出産儀礼における医師・医書の役割	勝浦令子	7-39
古代における天皇大葬管掌司について	榊 佳子	41-60
装束からみた天皇の人生	近藤好和	61-80
王の生と死をめぐる儀礼と法会文芸——堀河院の死と安徳帝の生——	小峯和明	81-96
臨終儀礼と死後の世界観	趙 恩鶴	97-107
“七つ前は神のうち”は本当か——日本幼児史考——	柴田 純	109-139
近世公家社会における葬送儀礼	佐竹朋子	141-171

秋田藩佐竹家子女の人生儀礼と名前——徳川将軍家と比較して——	大藤 修	173-223
近世における誕生日——将軍から庶民まで そのあり方と意識——	鵜澤由美	225-263
可視化される習俗——民力涵養運動期における「国民儀礼」の創出——	岩本通弥	265-322
性と出産の近代と社会統制——雑誌メディアからみた衛生観念・家族規範・国民意識の形成とその回路——	大出春江	323-354
『風俗志』にみる儀礼と習俗の変化——記録された明治大正期の人生儀礼——	関沢まゆみ	355-391
石塔と墓籍簿——実際の死者と記録される死者：両墓制・単墓制の概念を超えて——	新谷尚紀	393-492
葬儀用品問屋と葬儀の産業化——ある問屋さんのライフヒストリーを通して——	山田慎也	493-522
四国山地・上須戒の出産民俗史——夫婦共同型出産習俗にみる安産への視線——	吉村典子	523-567
余韻で構成される韓国の伝統喪礼	金 時徳	569-580
[研究ノート]		
死者の火——儀礼伝承の潜伏と顕在と——	関沢まゆみ	581-590
第142集 共同研究「宗教者の身体と社会」 (2008年3月発行)		
共同研究の経過と概要	松尾恒一	1-5
[第I部] 論考		
1 民間宗教の中・近世から近代へ		
東北地方における修験者と権現舞	神田より子	9-41
梓神子と神事舞太夫	林 淳	43-55
富士山の神事と芸能	堀内 眞	57-96
富士山信仰における庚申縁年の由緒について	菊池邦彦	97-156
中世春日社の社司と祈祷	松村和歌子	157-191
東大寺二月堂修二会「中臣祓」の典拠と構成——南都寺院における中臣祓の一例として——	大東敬明	193-209
祭りと葬式を行き交う身体——奴振りを担う人々と葬祭業——	福持昌之	211-238
伊豫神楽の神道化をめぐる	越智三和	239-253
2 呪術と身体		
三信遠における死霊祭儀——静岡県浜松市水窪町における霜月祭と念仏踊の比較研究——	井上隆弘	257-292
天中姫宮、米の本地——いざなぎ流と巫女信仰——	梅野光興	293-313
いざなぎ流、託宣祈禱の諸相——神霊と交感する言葉と身体——	松尾恒一	315-336
本川神楽の呪法と系譜	小池淳一	337-353
巳正月と御田植祭にみる「後ろ向き」の行為について	常光 徹	355-380
宗教者としての中世の春日巫女	松村和歌子	381-395
3 南西諸島の宗教者の身体と社会		
沖縄の祭祀とシャーマニズムについての覚書——宮古の事例を中心に——	赤嶺政信	399-412
現代を生きるネーシ——島と都会の狭間で——	川崎史人	413-441
女性神役の就任過程と唱え言についての試論——石垣島川平の事例——	澤井真代	443-471
[第II部] 資料		
[資料紹介]		
村山口を中心とする富士信仰関係資料	堀内 眞	475-499
平安、鎌倉期春日社の清祓史料『永仁四年中臣祐春記』『廻廓諸門清祓勘例』を中心に	松村和歌子	501-513
『春日社若宮記』	松村和歌子	515-543
伊豫神楽神楽本『伊豫神楽神祇歌並式次第』『津嶋組 伊豫神楽神祇歌』	越智三和	545-586

静岡県浜松市水窪町草木の神名帳	井上隆弘	587-590
小松豊孝太夫記 いざなぎ流御祈禱資料『屋の神、おん崎、観子神等、大小祭式作法』二冊	松尾恒一	591-668
第143集 特定研究「北部日本における文化交流—続縄文期」 (2008年3月発行)		
寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告〈上〉		阿部義平編
第一章 特定研究 III 期の研究課題の設定と成果品		2-5
第二章 「北部日本における文化交流」の共同研究の経過		6-11
第三章 続縄文文化研究斑の遺跡選定まで		12-37
第四章 寒川遺跡の調査研究		38-87
第五章 木戸脇裏遺跡他の発掘調査成果		88-178
図版		179-218
写真図版		219-290
あとがき		291
第144集 特定研究「北部日本における文化交流—続縄文期」 (2008年3月発行)		
寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告〈下〉		阿部義平編
第六章 森ヶ沢遺跡の発掘調査の計画と実施状況		2-19
第七章 森ヶ沢遺跡の発掘		20-91
第八章 森ヶ沢遺跡の調査成果の総括と問題点		92-133
第九章 分析研究の成果		134-164
第十章 北部日本における文化交流—続縄文期斑の研究の考察と展望	阿部義平	165-201
図版		203-263
写真図版		265-345
あとがき		347
第145集 (2008年11月発行)		
「商売」を軸とした〈べてる〉との付き合いの技法——北海道浦河町4丁目住民の		
精神障害者とともに暮らす事例から——	浮ヶ谷幸代	1-32
ポーランド民族学の歴史およびポズナンにおける民族学環境	ヤツェク・スプリスガルト	33-62
棚田の灌漑システムからみた水利用と環境利用の多様性——多民族が暮らす		
雲南国境地帯を事例として——	西谷 大	63-100
弥生中期・栗林式土器編年の再構築と分布論的研究——弥生交易論の可能性を		
視野に入れて——	馬場伸一郎	101-174
前方後円墳祭祀の論理——墳頂部の内方外円区画をめぐって——		
戦争を「民話」として語るということ——『現代民話考』の戦争にまつわる話をめぐって——	村山絵美	211-228
ナミビアの牧畜民ヒンバと土地のかかわり——その歴史と現在——		
農家の兼業はいかにして続いてきたか——農業と臨時雇いを兼業する人々の労働観——	吉村郊子	229-251
祭礼観光経済序説——近世・近代における都市祭礼の経済構造——	渡部鮎美	253-274
洛中洛外図屏風歴博甲本の成立と初期洛中洛外図屏風諸本	宇野功一	275-315
『政事要略』所引『論語義疏』の性格について	小島道裕	317-347
世田谷のボロ市の発達史と現況	高田宗平	349-372
[資料紹介]	長沢利明	373-412
国立歴史民俗博物館蔵田中穰氏旧蔵『西行物語』——翻刻・附解題——	内田滯子	413-430

第146集 平田国学の再検討(三)「平田家資料」翻刻 解題(三) (2009年3月発行)		
一 金銀入覚帳	遠藤 潤・熊澤恵里子・中川和明・松本久史・宮地正人・吉田麻子	3-384
二 文政六年平田篤胤上京日記(続)(十月六日～十一月十三日)	中川和明・宮地正人	385-389
第147集 共同研究「戦争体験の記録と語りに関する資料論的研究」 (2008年12月発行)		
共同研究の概要と経過	関沢まゆみ	1-6
「戦争と死」の記憶と語り——その個人化と社会化——	関沢まゆみ	7-34
兵士が死んだ時——戦死者公葬の形成——	荒川章二	35-63
アジア・太平洋戦争と日本の宗教研究——学史からのアプローチ——	西村 明	65-76
遺骨への想い、戦地への想い——戦死者と生存者たちの戦後——	西村 明	77-91
戦没者の遺骨と陸軍墓地——夫が戦没した妻たちの六〇年後の意識から——	横山篤夫	93-131
戦争の民俗——戦争体験の記録と語りをどう記述するのか——	佐藤雅也	133-196
「被爆の証言」を紡ぎだす——「原爆の絵」作者への聴きとりから——	直野章子	197-217
広島市周辺地域の「被爆体験」について	藤井 昭	219-240
戦時下の氏神——長野県東筑摩郡『神社誌』の資料論的考察——	伊藤純郎	241-267
管内神社と地域社会——「軍都」金沢の事例を中心に——	本康宏史	269-314
管内神社等の創建	坂井久能	315-374
忠霊塔建設に関する考察——その敗戦までの経緯——	今井昭彦	375-416
戦争体験のオーラル・ヒストリー——日米の実践と課題——	河野 仁	417-436
集合的記憶のエージェンシー——集合的記憶の社会学構築のために——	栗津賢太	437-463
三浦郡葉山町における戦没者の記録	坂井久能	465-520
日本とドイツにおける歴史認識——その概念と実態——	サーラ・スヴェン	561-578
[研究ノート]		
戦時体験の記録と語り——日赤看護婦のリアルタイムの「陣中日記帳」と、 晩年の「記憶と語り」より：一九三七年の上海戦線と病院船勤務——	新谷尚紀	521-559
第148集 共同研究「神仏信仰に関する通史的研究」 (2008年12月発行)		
共同研究の経過と概要	三浦正幸	1-6
古代日本の神仏信仰	北條勝貴	7-39
広瀬大忌祭と龍田風神祭の成立と目的について	山口えり	41-60
神社社殿の成立と律令国家	有富純也	61-71
真名鶴神話と伊勢神宮の祭祀構造	藤森 馨	73-83
神社本殿の分類と起源	三浦正幸	85-108
神社玉殿の起源と特質——安芸国の玉殿を中心として——	山田岳晴	109-167
仁治度厳島神社廻廊の復元的研究	山口佳巳	169-191
中世諸国一宮制の歴史的構造と特質——中世後期・長門国の事例を中心に——	井上寛司	193-238
中世後期における豊前一宮宇佐宮の動向——大内氏との関係を中心に——	永田忠靖	239-248
神社史料の諸問題——諏訪神社関係史料を中心に——	井原今朝男	249-268
近世神社通史稿	井上智勝	269-288
吉田家の諸社家官位執奏運動——寛文九年吉田執奏一件争論を中心に——	橋本政宣	289-329
十七世紀中葉における吉田家の活動——確立期としての寛文期——	幡鎌一弘	331-356
近世の神職組織——触頭を擁する組織を対象に——	井上智勝	357-378
古写真と絵図類の考察からみた鎮守の杜の歴史	小椋純一	379-412
神社祭祀の伝承力——美保神社と佐太神社の祭祀から——	関沢まゆみ	413-434
伊勢神宮の創祀——日本民俗学の古代王権論——	新谷尚紀	435-483
ドイツ語圏の日本学における神社に関する研究	ウルズラ・フラッヘ	565-585

ドイツ語圏の日本研究から見た神仏分離 [研究ノート]	ウルズラ・フラッヘ	587-621
明治維新时期における神仏分離と地域神社 [資料紹介]	櫻井治男	485-491
史料紹介—近世祇園社年中行事関係史料	五島健児	493-499
神宝基礎史料集成（撰関期まで編年史料）	近藤好和	501-525
国史見在社について	三橋 健	527-563
第149集 共同研究「縄文・弥生集落遺跡の集成的研究」（2009年3月発行）		
研究の経緯と成果・課題	藤尾慎一郎	1-30
論考編1 弥生時代の集落論		
集落分布パターンの変遷からみた弥生社会	若林邦彦	33-53
独立棟持柱建物と祖霊祭祀	設楽博己	55-90
弥生集落の祭祀機能と景観形成	小林青樹	91-112
¹⁴ C年代測定を利用した縄紋中期堅穴住居の実態の把握	小林謙一	113-133
較正年代を用いた弥生集落論	藤尾慎一郎	135-161
論考編2 各地の弥生集落		
北部九州の弥生時代集落と社会	小澤佳憲	165-195
松山平野における弥生社会の展開	柴田昌児	197-231
山陰地方の弥生集落像	濱田竜彦	233-311
山陰の弥生都市——出雲東部地域の非農耕的な大型集落——	広瀬和雄	313-334
伊勢湾周辺地域における弥生大規模集落と地域社会	石黒立人	335-348
北陸における弥生時代中期・後期の集落	安 英樹	349-371
第150集（2009年3月発行）		
北陸地方石川県における縄文晩期から弥生移行期の炭素14年代測定研究	小林謙一・福海貴子・坂本 稔・工藤雄一郎・山本直人	1-32
古墳時代像再構築のための考察——前方後円墳時代は律令国家の前史か——	広瀬和雄	33-148
[研究ノート]		
国立歴史民俗博物館第3展示室リニューアルに伴う試行展示とその評価に関する 考察	井上由佳・久留島 浩	149-178
平成17年度国立歴史民俗博物館 民俗研究映像「AINU Past and Present —マンローのフィルムから見えてくるもの」：映画フィルムの資料批判的 研究に関連する研究ノート	内田順子	179-192
[資料紹介]		
脱走旧幕府軍兵士の戊辰戦記——塩谷敏郎「戊辰ノ変夢之棧奥羽日記」の翻刻——	樋口雄彦	201-260
『国立歴史民俗博物館研究報告』（第131集～第150集）総目次		193-200